

概要

さまざまな理由から日本の学校に入学した「**外国につながる子どもたち**」の日本社会への着地を助け、さらに日本社会でキャリア形成していくために不可欠な**学力を支える**ために、異文化コミュニケーション学部生が**支援活動**を行っています。

現状

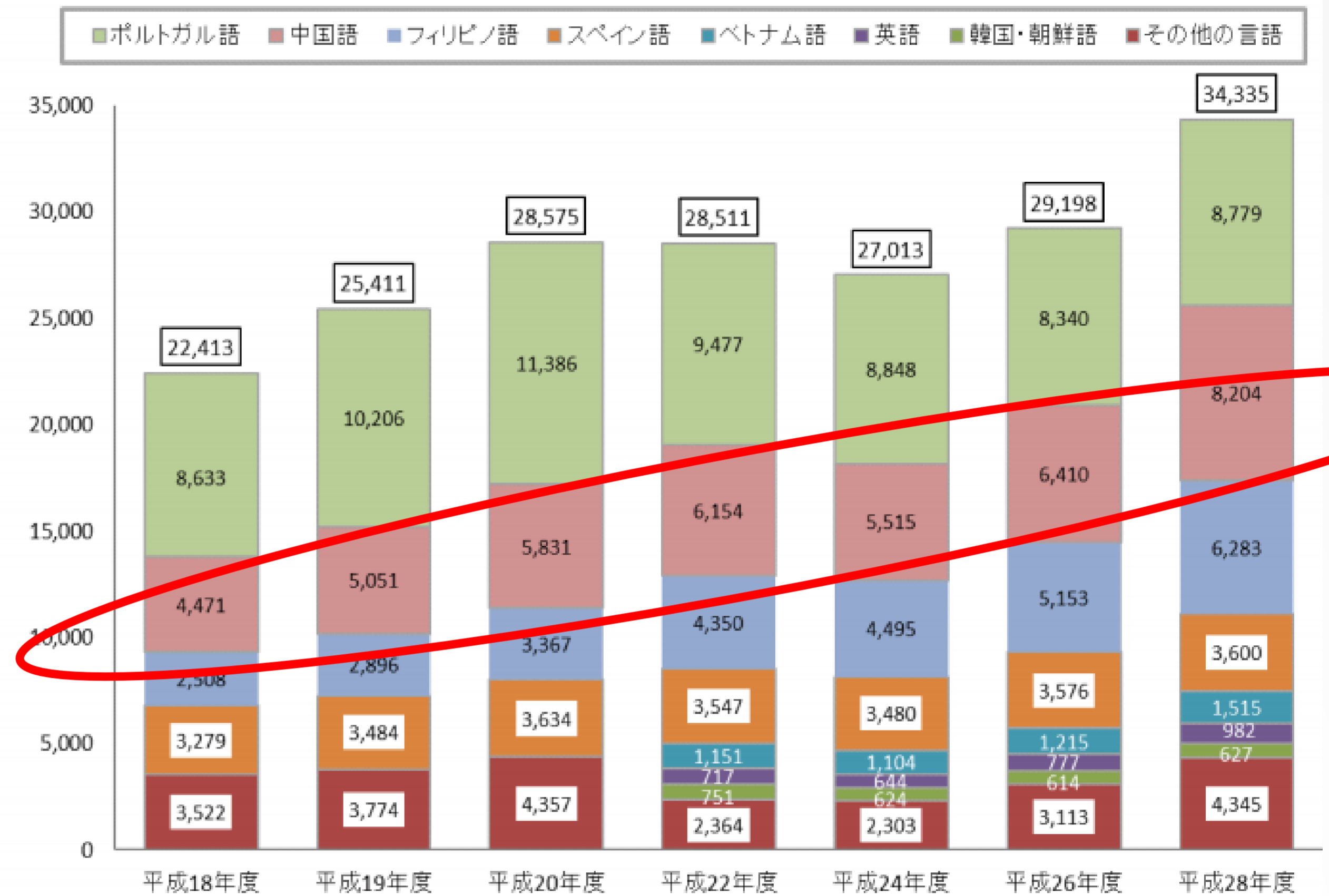
・日本語指導が必要な外国籍の児童生徒数が約3万人のうち中国語を母語とする生徒が全体の**約20%**を占めている[註]。(文部科学省HP/昨年度のデータ)

・豊島区立の中学校**8校中**、日本語指導のための教員が配置されているのは、**西池袋中学校1校のみ**。

・来日したてで日本語のできない生徒が、西池袋中学校に集中する傾向にある。

・今後、日本社会でキャリア形成していくことを考えると、進学など学歴達成の面でも**支援の必要性**があります。

図5 日本語指導が必要な外国籍の児童生徒の母語別在籍状況



「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」(平成28年度)

始めたきっかけ



：きっかけは彼らを**昔の自分に重ね合わせたか**

らです。私自身も中国の東北地方で生まれた朝鮮族です。初めて日本に来たのは小学校6年生の時でした。言葉が通じず、友達を作る事もできず、学校生活が苦しかった時、**もし同じ言語話す誰かがそばにいれば**、とその時は毎日思っていました。きっと**彼らも同じように感じているのではないか**と思うと心苦しく、微力ながらもぜひみんなの力になりたいと思い、この西池袋中学校の通訳ボランティアに参加することを決めました。



：大学に入学した当初はサークルも入っていなければ、何もすることがありませんでした。しかし、せっかく留学

生として日本に来ているからには、お客さんとしてではなく、**この社会の一員として何かできないか**という思いがありました。当時、先生から立教大学のすぐ近くにある中学校に来日して間もなく言語の面でも学校生活でも助けが必要な生徒たちがいることを聞き、**自分も留学して最初の頃にも似たような経験をしたので**、この西池袋中学校の学習支援活動に参加することになりました。

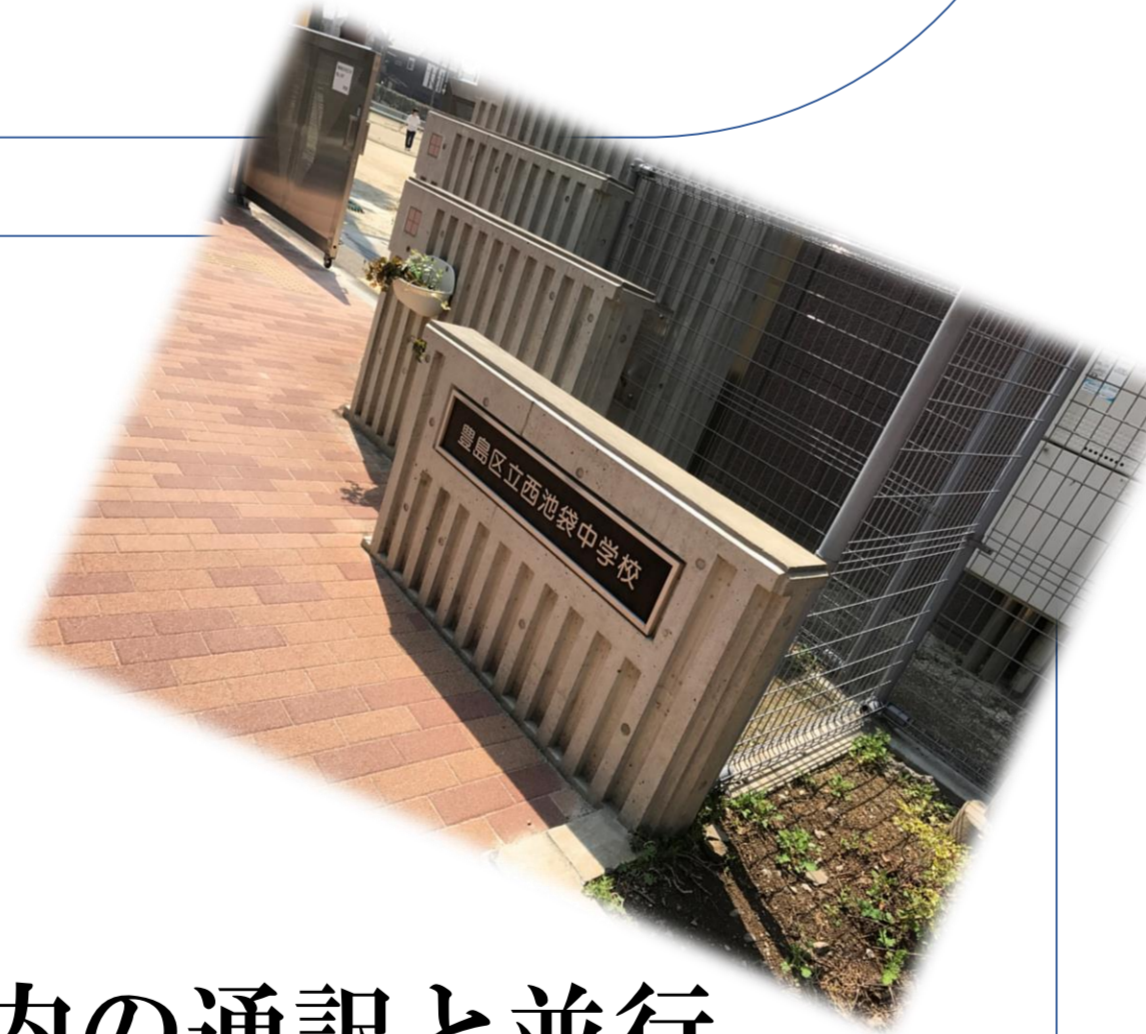
発展

活動期間：今年で**3年目**。

活動人数：当初15人、現在約10人ほど

・今年から**放課後の学習支援**を設け授業内の通訳と並行。
⇒**中国語のできない学生も参加**できるようなボランティア活動に。
⇒留学生だけでなく、日本人学生も積極的に参加してもらうことにより、**より多くの生徒たちが支援を受けられる**ように規模が拡大。

・3年目の今年の秋学期から、**活動が正規科目に**。
—事前学習を通して在日外国人の社会的背景や現状について学び、活動を行う—



困難



①他の生徒たちへ迷惑しまうこと。
(先生の話声を聞こえにくくさせる恐れ)

②交流が授業内のみで、信頼関係を築きにくい。



①短時間でちゃんとコミュニケーションを取れず、時々壁を感じ、**より親密な関係を作ることの難しさ**。

成果

①中国人生徒と日本の生徒の**交友関係構築**

②生徒の**成績向上**

今後の展望

・身近に異文化に触れながら、人をサポートできる。

・中国語のできる人はもちろん、そうでない人にもぜひこの活動に加わってこの学部で学んだ異文化の理念を**実践しつつ**、生徒たちへの支援をしていただきたい。

・**サービスラーニングB**

支援活動を通じて**異文化社会への理解やコミュニケーション能力の向上**を目的とし、この学習支援活動は今年度秋学期よりサービスラーニング科目として開講されています。